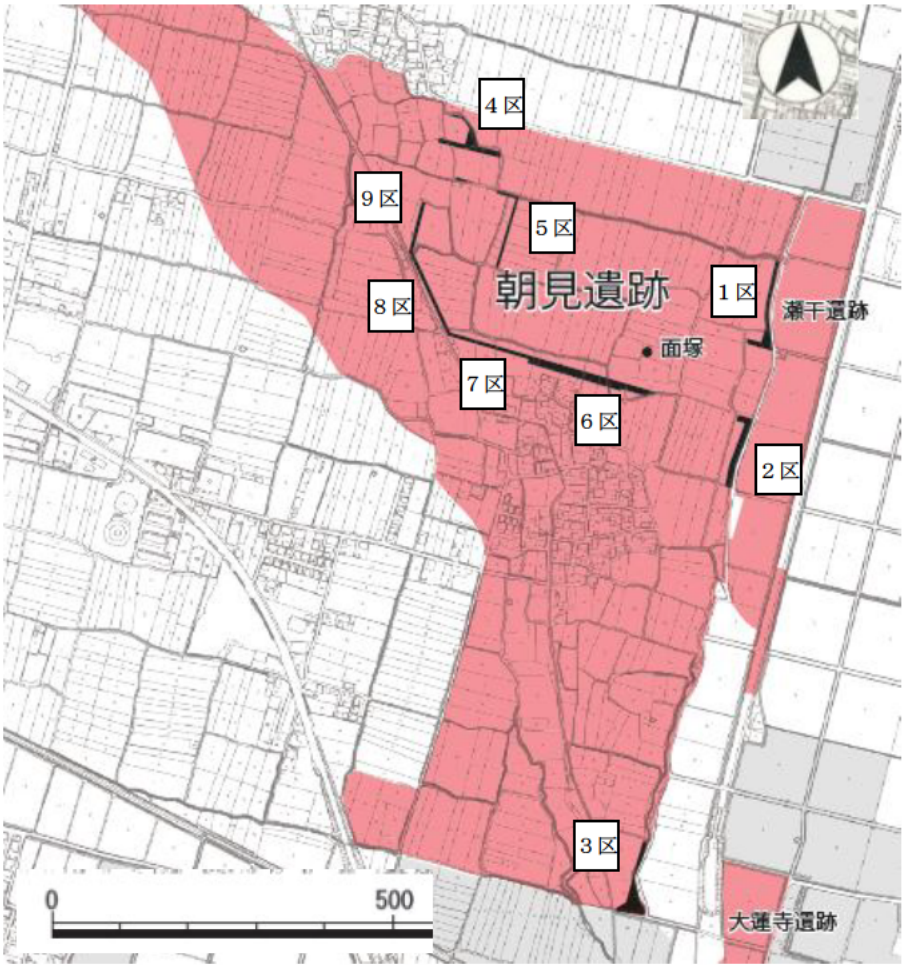
朝見遺跡（第５次）　その５

所在地　：松阪市　立田町・和屋町（まつさかし　たつたちょう・わやちょう）
位置情報ＵＲＬ：三重県地図情報サービス　朝見遺跡発掘調査現場

調査を通して様々な井戸跡が見つかりました！

今年度の朝見遺跡の調査は、分散した９調査区を移動しながら作業を進めてきました。約９か月間の調査を通して、合計１３基の井戸跡が見つかりました。



【井戸跡の数】
１区：１基
２区：なし
３区：１基
４区：４基
５区：１基
６区：４基
７区：２基
８区：なし
９区：なし

１３基の井戸跡は、奈良時代のものが１基、平安時代のものが１０基、鎌倉時代が２基でした。また、１３基の井戸跡のうち、井戸枠が残っていたのは５基でした。

今回の発掘情報では、発見した井戸跡の特徴を紹介していきたいと思います。

（１）平安時代の板組み井戸（１区）

井戸枠は、東西方向に縦板、南北方向に横板を配しています。
縦板と横板を併用するのは、平安時代後期～鎌倉時代における松阪周辺地域の特徴のようです。

接合部は、凹凸で組み合わせています。

縦板・横板を取り外した下には水溜があります。
枠と水溜の間には礫を詰めています。

下部には水通し穴が
空けられています。

水溜は、木を刳り抜いて作られたもので、
高さが約７０ｃｍありました。

（２）平安時代の板組み井戸（４区）

４区では、井戸枠の残っている井戸跡が２基、見つかりました。
この井戸も縦板と横板を併用しています。

もう一基の井戸跡では、内部に溜まる泥・土の中に、竹で編まれた籠が見つかりました。

この井戸の水溜には、曲物（木の板を曲げて作る容器）が使われています。

井戸枠の下層には水溜が、そして周囲からは山茶碗が見つかりました。

（３）鎌倉時代の石組み井戸（６区）

井戸跡を掘り下げると、石組みの井戸枠が見えてきました。

石組みには、楕円形の石が用いられています。

さらに掘り進めると、石組みの様子がはっきりしてきました。

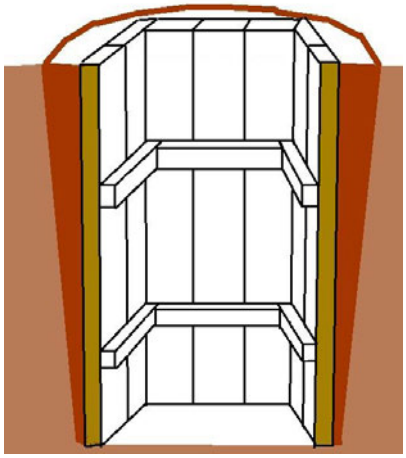
三重県内の沖積平野で、これほどしっかりした石組み井戸は珍しいようです。

石組みの下には、曲物によって作られた水溜がありました。

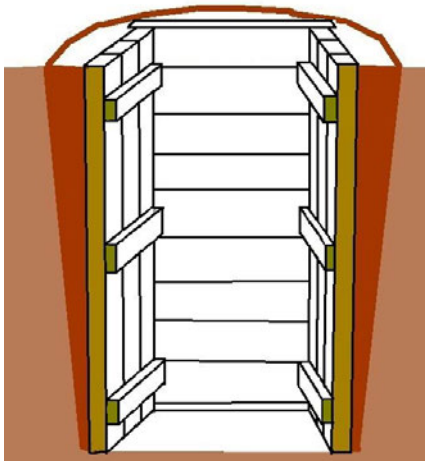
以上、紹介した井戸を、宇野隆夫氏の分類をもとに、井戸枠に注目してみると、（１）と（２）の板組みの井戸については「縦板組横桟どめ（よこさんどめ）」を基本に、縦板と横板を組み合わせたもの、（３）の石組みの井戸については、石が垂直に積まれた「石組円筒形」であると考えられます。

また、水溜についてみると、（１）は「丸太刳抜き（くりぬき）」、（２）と（３）は「曲物」に分類されます。朝見遺跡でも、隣接する堀町遺跡と同様、曲物を用いることが多いと考えられます。周辺の遺跡で見つかった井戸跡のうち、水溜に刳抜きを用いたものは、櫛田町の奥ノ垣外遺跡で２例ほどしか見られていません。

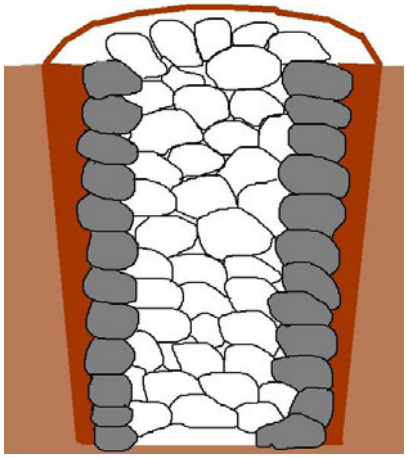
朝見遺跡や周辺の遺跡の調査から、井戸の時代や地域ごとの特徴がわかってきました。



縦板組横桟どめ



縦・横板組横桟どめ



石組円筒形

宇野隆夫「井戸考」(『史林』第６５巻第５号，京都大学史学研究会，１９８２年)
Ｐ．６～７の図を元に作成

＜問い合わせ先＞　〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503
三重県埋蔵文化財センター調査研究１課
担当者：櫻井・谷口・森・嶋田
電話：0596-52-1732　FAX：0596-52-7035
E-mail：maibun@pref.mie.jp